

■認知機能テスト 乗務員・ドライバー側

ハードウェア： Android タブレット (Android OS Ver7.0 以上) タッチパネル対応

インターネット接続環境が必要です。

モード： モード1 デイリーモード 約1分間で日々のチェック・トレーニングが可能です。

モード2 ノーマルモード 全てのチェック・トレーニングを行います。

匿名でのチェック・トレーニングも可能です (約5分程度)。

■管理者側アプリケーション

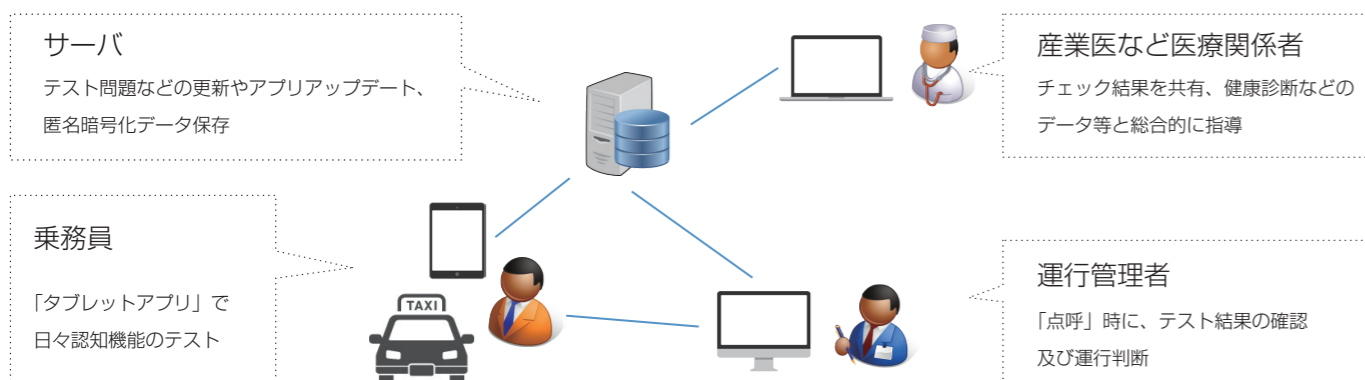
ハードウェア： インターネット接続が可能な Windows PC (Windows7/8/10)

ブラウザ： GoogleChrome を推奨

使用上の注意

本機器は医療機器ではありません。ユーザーが何らかの症状や疾患の診断を求める場合は、必ず医療機関を受診してください。
 本ソフトウェアの仕様により得られる数値は参考値であり、メーカー独自の解析を行っております。
 本ソフトウェアの利用はユーザーの責任で行うものであり、交通安全などに関する全リスクはユーザーが負うものとします。
 その他のデータを参考にして行った自動車運転などの業務に起因する人身傷害、または各種損害について、株式会社トライプロ及び各ハードウェアのメーカー、販売会社は一切の責任を負いません

システム構成図



詳しい資料請求、お問い合わせ、お見積りは…

TEL (平日9:00-18:00) 03-6804-0908 E-mail info@trypro.co.jp Webサイト http://www.trypro.co.jp

株式会社 トライプロ
 〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-42-11 高麗屋ビル301
 Tel.03-6804-0908 Fax.050-3488-7454

※製品、およびシステムの仕様、価格は、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
 ※本パンフレットに引用された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
 ※本パンフレットは2019年5月作成です。

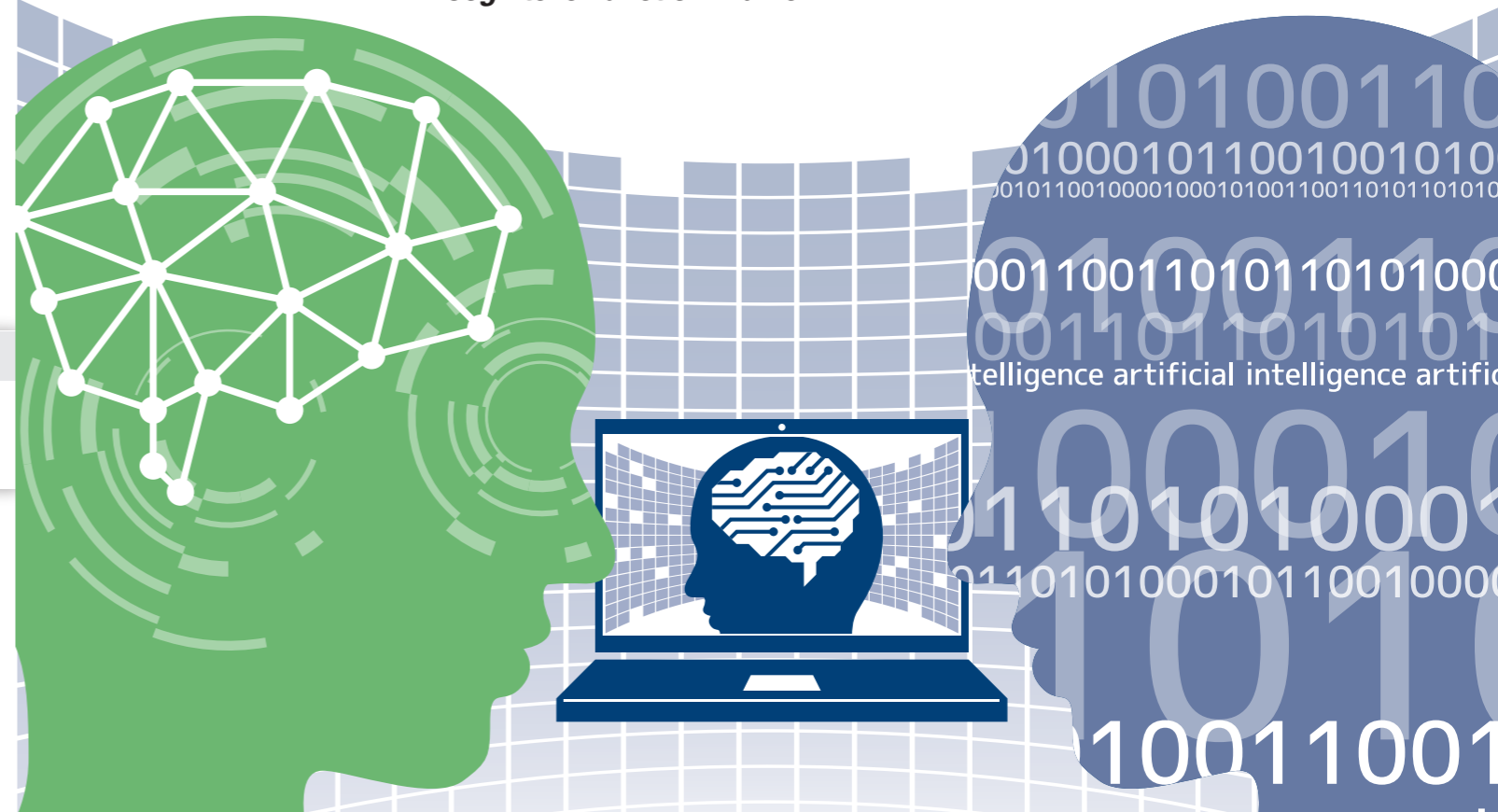
高齢運転者・ドライバーの 認知機能に起因する事故の防止に

タクシー・バス・トラック 運輸・運送業向け

認知機能チェック・トレーニング

CFトレーナー

Cognitive Function Trainer



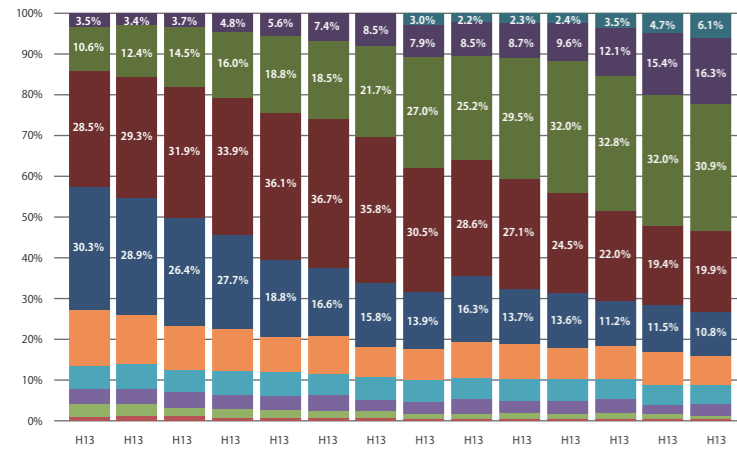
簡単操作

安価

早期発見

高齢乗務員・ドライバーの「事故リスクの発見」と「日々のトレーニング」に！

高齢化する乗務員・ドライバー 高齢化する乗務員・ドライバーの認知機能チェックと日々のトレーニングに！



※出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」、国土交通省「タクシー事業の現状について」
 ※H19以前は年齢70歳以上区分していない。

タクシー乗務員の高齢化は急激に進んでおり、65歳以上の乗務員率はここ20年足らずの間に約10倍近く急増。タクシーの4台に1台が65歳以上の高齢者が乗務していることとなります。

平成29年版高齢社会白書（内閣府）によると65歳以上の15%が認知症を発症しているとのことで、すでに認知症を疑われる可能性のある高齢者が乗務している可能性が考えられます。

人材の確保が難しくなっている運輸・運送業では今後さらに高齢化が進むことが想定され、早期の対策が望まれています。

運輸・運送事業者・現場の声 大勢の高齢乗務員をかかえるタクシー事業者、最近以下のような声があります。

釣り銭間違いや道を間違える、返事がないなどのクレームが増えた

免許更新時には問題がなかったと聞いている

呼びかけに反応がないなど、少し元気がないと感じる日がある

「調子の良い日」、「調子の悪い日」があるように感じる

おかしいと思い、受診を勧めたら「認知症」と診断された

高齢乗務員が多いので毎日もしくは週1回、簡単に確認ができる方法がないのか

- 現在までに運輸・運送事業者における運転者の認知症に起因する事故は（統計資料上）認められないが、一般ドライバーの認知症に起因する事故は増加傾向にある。
- (H25年 63件 / H26年 75件 / H27年 78件 / 計 216件 警察庁)

TRYPRO

今日も認知機能チェック & トレーニング!

結果を送信

乗務問題なし!

テスト項目 ヒューマンエラーや職務遂行との関係が強い項目をテストします



見当識テスト



見当識とは
 時間・場所・人物などから、自分のおかれた状況を判断する機能のこと。
 見当識には、たとえば、次のようなものがあります。

いま、自分はどこにいるのか
 いま、どんな季節か
 朝・昼・夕などの時間帯
 いま、対面している人は誰なのか

見当識の低下で生じる問題

- 日付や曜日、時間の把握が難しくなり、どれくらいの時間走っているのかわからなくなってしまう
- いま、自分が走っている車のいる場所が分からなくなってしまう

注意力 視覚探索テスト

注意力とは
 適切に意識を向けることができる能力です。一つの物事に意識を向け続けられる集中力とは異なり、注意力とは一つの物事に意識を向けつつ、周囲にも意識を払える力です。大まかに、持続、選択、転換、分配の4つに分かれます。

持続 持続する、繰り返して行われる作業中に、一定の反応行動を継続する

選択 複数の刺激に対して、これらの妨害因子を無視して本来の作業のみに専念する

転換 複数の情報処理を交代に行う

分配 2つの作業を同時に処理できるよう、意識を適切に分ける

注意力の低下で生じる問題

- 運転を長時間持続、継続することができなくなり、途中で休まないとはいけなくなる
- 救急車のサイレンが気になって、交差点で信号の確認を怠ってしまう
- 後部座席のお客さんと話をしながら、運転に意識を向けることができなくなる
- 運転に集中しすぎて、路肩で手を挙げてタクシーを待っている人を見逃してしまう

空間認識テスト



空間認識とは
 物体の位置・方向・姿勢・大きさ・形状・間隔など、物体が3次元空間に占めている状態や関係を、すばやく正確に把握、認識すること。

物体の位置や形状・方向・大きさなどの状態や位置関係を素早く正確に認識できるか
 目の前にない隠れたものでも頭の中で想像し、視覚的なイメージを形成することができるか

空間認識の低下で生じる問題

- 道路を走っている車や自転車と自分の距離がつかみづらくなる
- 駐車場の枠内に車を停めることが難しくなる
- 障害物に隠れた車や自転車、人などをイメージすることが難しくなる

計画力・遂行機能テスト



遂行機能とは
 遂行機能は、目的を達成するために計画的に筋道を立てて行動していくために必要な、複雑な認知・行動機能です。大まかに、目標設定、計画立案、計画実行、効果的遂行などの要素から成り立っています。

目標設定 意図的に構想を立てる

計画立案 採るべき手順を考案・選択する

計画実行 目的に方向性を定めた作業を開始・維持しながら必要において修正する

効果的遂行 目標まで到達度を推測することにより、遂行の効率化を図る

遂行機能の低下で生じる問題

- 手際がよくなった事務仕事のミスが増えた
- 伝票の書き忘れ
- スケジュール管理ができない
- 仕事の効率が悪くなったと注意されることが多くなった

短期記憶テスト



短期記憶とは
 記憶とは、新しい情報（体験）が脳に保存され、ときに応じてそれらを思い起こしたり使用したりする過程や機能のことを指します。一般的に、記録、保持、想起の三段階に分かれます。「記録」は新しい情報（体験）を意味に変換して記憶として取り込むこと、「保持」は「記録」したものを保存しておくこと、「想起」とは「保存」されていた記憶のある期間後に外に表現することです。短期記憶とは、「記録」後、数十秒から数十分という短時間保持される記憶で、保持できる量は少ないですが、この時間内では想起や復唱が可能です。

短期記憶力の低下で生じる問題

- 無線で聞いたお客さんの情報を忘れる
- 渋滞や工事、通行止めなどといった道路情報を忘れる
- どこに物を置いたか忘れる（いつも探し物をしている）
- 何度も同じことを聞く

自己抑制テスト



自己抑制とは
 自身の感情や行動を抑制し、うまくコントロールすることで、目的となる行動を達成します。自己抑制は遂行機能の1つと考えられていますが、まだ結論は出ていません。脳の前頭前皮質が関連しています。

自己抑制の低下で生じる問題

- アクセルやブレーキを加減して踏むことができない
- 前方で渋滞が生じているにも関わらず、スピードを出してしまい、無駄な燃料消費を行ってしまう
- 渋滞にはまるとイライラして、車線変更を頻回に繰り返すなど、荒い運転を行ってしまう